

平成28年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立雀宮中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成28年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成28年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	94	人	国語B	94	人
② 算数A	94	人	算数B	94	人

5 留意事項

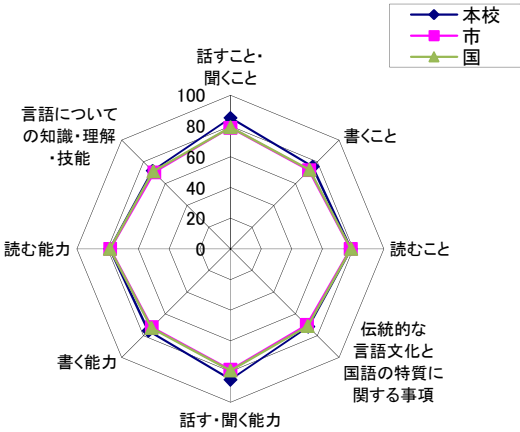
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」, 「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立雀宮中央小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

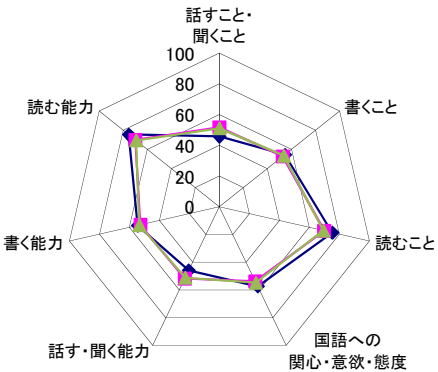
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	85.2	78.8	79.2
	書くこと	75.6	72.4	72.8
	読むこと	78.4	78.3	78.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	71.7	70.3	71.1
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	85.2	78.8	79.2
	書く能力	75.6	72.4	72.8
	読む能力	78.4	78.3	78.5
	言語についての知識・理解・技能	71.7	70.3	71.1



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	45.8	51.7	51.1
	書くこと	54.5	52.7	53.4
	読むこと	75.4	69.9	69.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	57.4	53.8	54.7
	話す・聞く能力	45.8	51.7	51.1
	書く能力	54.5	52.7	53.4
	読む能力	75.4	69.9	69.3
	言語についての知識・理解・技能			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	・A問題の正答率は85.2%, B問題の正答率は45.8%で、県や全国と比較してA問題は8ポイント程高く、B問題では、3ポイント程低い結果であった。 ○A問題では、聞き取りの問題の「話し合いの説明として適切なものを選択する」が市や全国と比べ6ポイント程度高く、85.2%の正答率であった。 ●B問題では、「スーパーマーケットの店長へのインタビューメモ」を基に解答する内容で、メモを作成する際に工夫した点として当てはまらないものを選択する問題が、42.0%と全国平均と比較すると約10ポイント低かった。また、話の展開に沿った質問を書く問題においても、46.6%と全国平均より4ポイント程度低い結果となった。	・目的に応じて、質問したいことを整理し質問するという活動を計画的に実施していく。ペアでインタビュー形式の活動をしながら、どんな内容の質問内容が適切なのかとか、メモの有効性などを学習していくようにする。
書くこと	・A問題の正答率は75.6%, B問題の正答率は54.5%で、市や全国と比較して3~4ポイント程度高い結果であった。 ○A問題では、話し合いの説明として適切なものを選択する設問の正答率は70.5%で、全国よりも3ポイント程高かった。 ○B問題では、早寝早起きについての課題に対する解決方法を書く設問では、72.7%と全国よりも9ポイント程高かった。 ●B問題では、「早寝早起きについての活動の成果と課題を取り上げた効果を選択する」設問の正答率が40.9%と低かった。	・グラフを基に設問に答える問題が比較的低かった。資料やグラフ、図形を読み取り、問題に答える活動を国語以外でも意図的に増やしていくようにする。また、グラフの読み取りの方法なども丁寧に指導していくようにする。
読むこと	・A問題の正答率は78.4%, B問題の正答率は75.4%で、全国と比較してA問題は同程度で、B問題は6ポイント高い結果であった。 ○A問題では、目的に応じて図と表とを関係付けて読む問題での正答率が92%と高かった。 ○B問題では、文章を選んで読む、読み方を工夫する、自分の考えを明確にしながらか読むのすべての設問で全国より4ポイント~10ポイント程度上回っていた。	・全体的に読む力は高く、全国平均と同程度である。理由として読書に親しんでいる児童が多いことが考えられる。今後もさらに意欲的に読書をする習慣を身に付けさせていけるよう支援していきたい。

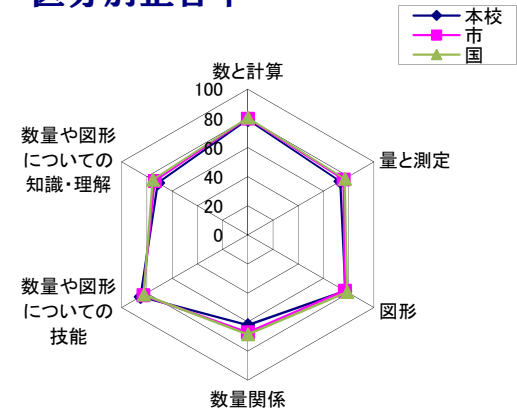
伝統的な言語文化 と国語の特質 に関する事項	・A問題の正答率は71.7%で、全国と比較して同程度である。 ○漢字を読む問題では全体的に正答率が高く、全国平均と比べると同程度である。また漢字を書く問題でも正答率は全国と同程度であった。 ●ローマ字を書く設問と読む設問では、正答率が50%を割っており、無解答率も約11～20ポイントと非常に多い結果となった。	・漢字に関しては、今後もドリル学習やプリント学習を重視していく。 ・ローマ字に関しては、パソコンを利用する活動を増やすようにするとともに、生活の様々な場面でローマ字に触れる機会を増やすようにする。
------------------------------	---	--

宇都宮市立雀宮中央小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

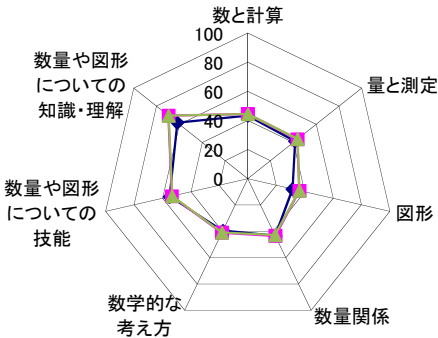
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	79.0	79.9	80.5
	量と測定	73.3	75.9	77.0
	図形	77.3	76.9	78.8
	数量関係	62.1	67.1	68.5
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	85.2	83.1	82.5
	数量や図形についての知識・理解	71.3	73.9	75.4



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	43.4	44.5	44.4
	量と測定	41.4	43.5	43.7
	図形	31.4	36.2	36.3
	数量関係	43.4	43.5	42.9
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	39.4	41.0	40.9
	数量や図形についての技能	55.1	53.5	53.3
	数量や図形についての知識・理解	61.9	69.6	69.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・A問題の正答率は79.0%, B問題の正答率は43.4%で、市や全国と比較して同程度であった。 ○A問題では、3位数の減法や小数の加法の計算の設問の正答率が高く、市や全国と比べて4〜8ポイント高かった。 ○B問題では、示された条件を基に、他の正方形の面積を求める設問では、正答率が94.3%と高かった。 ●A問題では、示された場面を適切に読み取り、全体の人数を求める式を表す設問の正答率が67%で、市と比べて10ポイント、全国と比べて13ポイント以上低かった。 ●B問題では、示された除法の式を並べてできた形と関連付け、角の大きさを基に、式の意味の説明を記述する問題の正答率は3.4%で、市や全国と比べて3ポイント程度低かった。	・示された場面を適切に読み取ることができるように、まず、分かっていることと求めることは何か、問題の意味などを捉えさせる学習指導を日々行っていく。 ・日常生活の事象の解決に、算数の式が役に立つ場面を設け、その意味を理解させ、支援していく。
量と測定	・A問題の正答率は73.3%, B領域の正答率は41.4%で、市や全国と比較して同程度であった。 ○A問題では、三角形の底辺に対応する高さを選ぶ設問の正答率は84.1%で、全国や市と比較して2〜4ポイント高かった。 ●A問題では、単位量当たりの大きさをを用いて人数を求める設問の正答率が62.5%で、市や全国と比べ10ポイント低かった。また、無回答率も10.2%と高かった。 ●B問題では、示された説明を解釈し、用いられている考えを別の場面に適用して、その説明を記述する設問の正答率が36.4%で、市や全国と比べ8ポイント程度低かった。	・分度器を用いて様々な大きさの角を測定する活動を多く取り入れるとともに、直角を基にして角の大きさの見当をつけることの大切さを理解させ、角の大きさについて感覚的に捉えられるようにしていく。 ・単位量当たりの大きさをを用いて解く問題を多く取り入れ、そのよさに気付くように支援する。 ・自分の考え方を説明できるように、ノートに記述させる。また、いろいろな考え方があることに気付かせるために、考え方の説明を発表させる授業を多く取り入れる。
図形	・A問題の正答率は77.3%, B問題の正答率は31.4%で、市や全国と比較して同程度である。 ○A問題では、図形の構成要素に着目して、図形を構成する設問の正答率が85.2%で、市や全国と比べて5ポイント程度高かった。 ●A問題では、直方体における面と面の位置関係に関する設問の正答率が69.3%で、全国と比べて8ポイント程度低かった。 ●B問題では、正方形に内接する円の半径についての設問の正答率が64.8%で、市や全国と比べ11ポイント以上低かった。また、図形を構成する角の大きさを基に、四角形を並べてできる形を判断する設問の正答率は26.1%と低かった。	・図形の指導に関しては、作図や図形の組み合わせから図形の性質を導き出す活動を通し、様々な図形の構成要素に着目させていく。 ・見取り図や展開図の指導では、模型などの具体物を活用し、よく観察させながら、立体図形を構成する辺や面のつながりや位置関係を指導していく。

数量関係	・A問題の正答率は62. 1%, B問題の正答率は43. 4%で, 市や全国と比較して同程度である。 ○B問題では, 示された2つの表を基に読み取ることができない事柄を選択する設問の正答率が77. 3%で全国と比べ7ポイント程度高かった。 ●B問題では, 理由や説明を記述する設問に対する正答率が低く, 記述式問題への無回答が多かった。	・割合や単位量あたりの大きさを求める文章問題では, 出てきた数字や単位に線を引くなどして, 何を求めるのかを正確に読み取れるよう指導する。そして, 立てた式の意味を, 言葉だけではなく図や絵を用いて説明するといった活動の充実を図ることで, より深い理解へと繋げていけるようにする。
------	---	---

宇都宮市立雀宮中央小学校第6学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○地域に関する質問について、どの項目においても、肯定的回答の割合が全国平均を5ポイント以上上回っており、地域に対する興味・関心の高さがうかがえる。本校で毎年行われている、よりよい地域づくりのための話し合いの場である「雀央サミット」があることも一つの成果であると考えられる。

今後も地域と学校との貴重な協議の場である「雀央サミット」を大事にし、地域に積極的に関わる態度を育て活性化に繋げていきたい。

○「総合的な学習の時間」について、肯定的回答の割合が全国や県の平均より高い傾向にある。本校では、栃小教研発表に向け、保健教育の研究を進めており、「自分の健康に関心を持ち、学んだ知識や技能を明日の生活に生かすことができる子どもの育成」を研究主題として取り組んでいる。この研究をもとに行っている授業に「総合的な学習の時間」を活用し、健康について自分の課題を意識させ、情報収集し、調べたことをまとめて発表する等の共に高め合い学ぶ学習を積み重ねてきた。これらの研究による学習の機会による成果だと思われる。今後も継続して取り組むことができるよう、「総合的な学習の時間」を活用していきたい。

●読書について、図書室や図書館を利用している児童の割合は高いものの、1日の読書時間が30分以上の児童の割合が大変低い。今後は、読書週間などを活用しながら、本の楽しさを伝え、普段から読書をする環境を整え、継続的にできるよう支援していきたい。